

# 流水型川辺川ダムでは 人命も環境も守れません！



県に共同検証を提案(RKK)2021年11月4日

川辺川の流水型ダムを柱とする球磨川河川整備計画案について、蒲島知事は7月27日、「異存なし」と回答。それを受け国は8月9日、球磨川河川整備計画を策定しました。しかし、流水型ダムに関し、住民からの疑問は全く解消されないうままです。

流水型ダムの最大の弱点は、穴がダムの下部にあるために、洪水

時に流れる大量の流木や土砂、岩石などがダムの穴に押し寄せ、穴がふさがることです。

国交省は同じ流水型の立野ダムについて「流木や巨石はダムの上流に捕捉する施設を設けて止める。穴にも柵を設置するので問題ない」と強調しますが、2020年7月豪雨で球磨川や支流を流れ下った流木の量を考えると、それらで対応できるわけがありません。

洪水時に柵にはりついた流木等でダムの穴がふさがれば、洪水調節できなくなり緊急放流するのはもちろん、ダム周辺や下流は大変危険なことになるのは明らかです。

国交省は流水型川辺川ダムの費用対効果を1.9としましたが、旧川辺川ダム計画で実施済みの事業費を加えた場合の費用対効果は0.4と、予算化の目安となる1を下回っています。同省が「旧ダム事業を引き継いでいるので法アセスはしなくてもよい」というのなら、当然費用対効果でも旧事業からの分も加算すべきです。ダムが洪水調節できなくなる場合も想定すると、費用対効果はさらに下がるのは明らかです。

私たちは、人命も環境も守れない流水型川辺川ダム建設を強行する国交省と蒲島知事に強く抗議するものです。流水型ダムの危険性について、国や県は説明責任を果たすべきです。

## ●2021年9月～22年8月の主な出来事・活動報告

- 21. 8. 11 緊急放流の危険性を伝えない市房ダムパンフについて県に抗議
  - 9. 19 第25回清流川辺川現地調査。ダム以外の治水、再建を求め100人が相良村柳瀬の川辺川河川敷に集合する
  - 11. 4 手渡す会など4団体が球磨川豪雨災害に関し共同検証を県に提案
  - 11. 23 流水型ダム中止を求め熊本市内で集会とパレード。200人参加
  - 12. 8 **国交省が流水型ダムを旧計画と同じ場所とすることを正式表明**
  - 12. 17 **国交省が球磨川の河川整備基本方針を変更。2020年7月の球磨川豪雨災害と同規模の洪水では、多くの区間で「安全水位」を越えることが明らかに**
  - 12. 24 国は22年度政府予算に流水型川辺川ダム建設関連26億円を盛り込む
- 
- 22. 2. 17 **流水型川辺川ダム建設事業費は2700億円と国交省が公表**
  - 3. 9 手渡す会などが調査・出版した「流域治水がひらく川と人との関係」が熊日出版文化賞を受賞
  - 4. 23～ 河川整備計画に対する公聴会、切実な声に国県からの応答なし
  - 5. 14 河川整備計画に住民意見を反映する要望書を提出
  - 6. 5 **蒲島知事が五木村で住民説明会**
  - 6. 8 流水型川辺川ダムの法アセス求め県に意見書提出
  - 7. 1 **国交省が流水型ダムを明記した球磨川河川整備計画案を公表**
  - 7. 29 **蒲島知事が流水型ダムを中心とする球磨川河川整備計画案に「異存なし」と回答**
  - 8. 9 **国交省が流水型ダムを中心とする球磨川河川整備計画を策定**  
(※太字は行政側の動き)

## ●「流域治水がひらく川と人との関係」 熊日出版文化賞を受賞！

熊日出版文化賞贈呈式

受賞4作品 編著者表彰



熊日出版文化賞とマイブック賞の受賞者  
= 9日、熊本市中央区のホテル日航熊本（谷川開）

手渡す会などが調査・出版した「流域治水がひらく川と人との関係」（嘉田由紀子編著、農文協）が、第43回熊日出版文化賞を受賞しました。贈呈式が3月9日、熊本市のホテル日航であり、手渡す会事務局長の木本雅己さんが出席しました。

本作は、命を守ることを最優先に、球磨川豪雨災害の被災者や河川等の専門家によって編まれた、これからの治水のあり方を示す貴重な提言書です。

球磨川豪雨災害の3人の被災者（手渡す会の

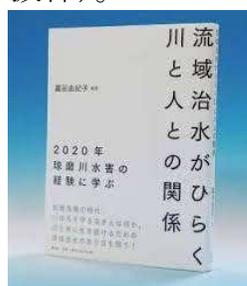
木本さん、市花由紀子さん、八代のつる様子さんと、嘉田氏を含む5人の識者が実証的かつ多元的な治水論を展開します。

第1章では、「被害構造」理論に基づく調査で、50名の方々が死に至った状況を解明。第2章では、住民たちが経験を踏まえ、球磨川の支川の氾濫や山の荒廃による影響を分析します。緻密な調査で浮かび上がった指摘は、いずれ説得力があります。

今本博健・京都大学名誉教授（河川工学）が解説している「洪水を河川に封じ込めるのではなく、流域全体で受け止める」という発想の転換は、昨年施行された流域治水関連法の本質に通底します（以上、熊日書評より抜粋）。



嘉田氏講演会（人吉新町会館）2021.11.28



本書を読まれると、今回の豪雨災害の実態や原因、今後の球磨川の災害防止のためには何が必要なのか。また、球磨川で国と県が進める「緑の流域治水」や流水型ダムを中心に据えた河川整備計画が、いかに本来の「流域治水」とかけ離れているのかが、よくお分かりになると思います。

全国の書店や通販、球磨川ハウスでも販売しています。是非お読みください。

## ●会計報告(2021年1月1日～2021年12月31日)

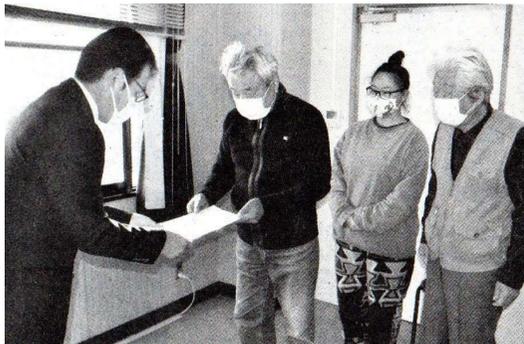
収入の部	金額	備考
繰越金	△18,724	
年会費・カンパ	479,167	
合計	460,443	

支出の部	金額	備考
郵送費	111,991	会報発送2回、資料発送
交通費	53,000	高速料金、ガソリン代
事務用品費	30,469	用紙代、封筒他
事務所維持費	120,000	家賃（電気代含）
その他（備品等）	192,375	プロジェクター他機材
合計	507,835	

(収入) 460,443 - (支出) 507,835 = △47,392

◇会費払込用紙(一口1000円)を同封致しました。手渡す会は皆様方の会費とご寄付のみで運営しております。ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

# 流水型川辺川ダムは「公共事業」ではない！



人吉市に要望書提出2021年11月19日

一昨年7月の球磨川豪雨災害以降、被災者からダム建設を求める声はほとんどありません。にもかかわらず、国と県は流水型川辺川ダム建設を強引に進めようとしています。

豪雨被災者が知事と対面して意見を述べた一昨年の「住民の皆様御意見・御提案をお聴きする会」に始まり、被災者の声を集めて知事に届けた記録集、球磨川豪雨災害被災者・賛同者の

会が行った豪雨被災者へのアンケート調査結果、そして球磨川河川整備計画案への口頭及び文書での意見、全てにおいて、ダム建設を望む意見はほとんどありませんでした。

河川整備計画策定の手続きにおいても、これまで全国の1級河川では、流域の住民や学識者等が参加する「流域委員会」を開いて検討してきたのが、球磨川では住民は一切参加できませんでした。意見募集の周知もほとんどなされず、説明会などもないままに、県民のほとんどは知らぬままに意見募集が進められました。

全部で172ページにも及ぶ河川整備計画の中で、流水型川辺川ダムについての記述は14行しかなく、環境保全の取組みに至ってはわずか2行の記述しかありません。これで説明責任を果たしているとはとても言えません。

ダム建設への不安や疑問の声が大半であるにもかかわらず、流水型川辺川ダム建設を強引に進めようとする国交省と蒲島知事は、一体誰のために何のために流水型ダムを造ろうとしているのでしょうか。

本来、公共事業とは、住民の税金を使って、住民のためになされるものです。住民に説明せず、住民の声も無視したまま策定された「球磨川河川整備計画」、そして流水型川辺川ダムは、公共事業とは言えません。

**編集後記** 国や県はダム建設のメリットばかりを宣伝して、ダムの危険性や、環境に及ぼす悪影響については説明しません。被災者や球磨川の近くに住む人たちは、ダムができれば川はどうなるのか、ダムが緊急放流するとどうなるのか、市房ダムの経験を身にしみ感じています。一方で、「被災者のために川辺川ダムは造ったがよいのではないか」と考える人も多いと思います。それらの人に、被災者はダム建設を望んでいないことを話すと、一様に驚かれます。被災者の声、球磨川の近くに住む人たちの声を、さらに明らかにしていく必要があります。(N.O.)